

# 国語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇小学校  
教諭 〇〇 〇〇

1 日 時 平成24年11月〇日 (〇)

2 学年・学級 第3学年〇組

## 3 指導事項

(1) 話すこと・聞くこと オ

- ・ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

(2) 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 イ(ア)

- ・ 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあることに気付くこと。

4 単元名 こちら、「子ども相談室」

5 言語活動 話すこと・聞くこと イ

- ・ グループで話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

## 6 単元の評価規準と目指す児童の具体的な姿

国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
○ 互いの意見を踏まえて一つにまとめていくために、それぞれの意見を尊重しながら話し合おうとしている。	○ 司会者や提案者、参加者などの役割に応じ、話合いの目的や方向性をとらえて、互いの考えの共通点や相違点を整理して進行に沿って話し合っている。	○ 感想や意見を伝えたり、共有したりするために、適切な言葉で自分の考えを表すことが大切であることに気付いている。

### 話す・聞く能力 二次3/4時

わたしは、必ず宿題をしているのだけれど、持ってくるのを忘れてしまうことがあります。何かよい方法はありませんか。

- 宿題をする場所はいつも同じですか。 場所が変わることがあるからランドセルに入れ忘れるということはないですか。

(必要なことを質問し、相談内容を理解しようとしている)

- わたしは、ランドセルの近くで宿題をすればよいと思います。 なぜなら、すぐにランドセルの中に入れてしまえば忘れなくてすむからです。

(質問をもとに、理由を添えて、自分の考えを話している)

- せっかく宿題をしたのに持ってくるのを忘れるとくやしいですね。 きちんとやったことを証明できないくやしきは分かります。 (共感を示す態度や言葉で相手の話を聞いている)

## 7 単元について

### ○ 児童の状況

- 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと：単元「えらんだ理由を話そう」において、二つのものを比べてどちらかを選び、選んだ理由を整理して話す学習をしている。まず、結論を述べ、次に理由を順序立てて述べるという文脈に沿って話すことができる。理由が妥当性に乏しい場合があるのが課題である。単元「話を聞いてメモをとろう」では、大事なことは何かを考えながら話を聞き、メモを取る学習をしている。簡略化した記号を使って話の速さに合わせてメモを取ることができる。話し手の気持ちを読み取り（傾聴）、気持ちに沿った質問ができていないことが課題である。話し合うことについては、学級活動において互いの考えを理解し共通点を見い出すことができる。どちらかの考えに決めるのではなく、順序を決め、少数の考えを尊重しようとする態度が身に付いてきた。進行の役割については、学級の2割程度（8グループで1名ずつ程度）、グループ内で意見を述べる順番を決めたり、決めたことを発表したりすることができる。グループで考えを収束させる際に、話し合いの中心となる児童の考えに安易に傾く傾向があり、話し合いによって考えが吟味されていないことが課題である。
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあること：自分の意見を述べるときに、主述を整え、「わたしは、～と思います」理由をあわせて（「なぜなら、～からです」）言うことができる。

### ○ 教材の価値

- 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと：本教材は、相手の立場や気持ちを考えて共感的に話を聞くことや、集団での合意形成のための話し合いなど、よりよく伝え合う力をつけることをねらいとしている。グループでの話し合いの形式を設定し、互いの話をよく聞き合い、自分の考えを理由も合わせて述べるという話し合いの基本を学ぶことができる。また、司会の前段階として進行係を置き、話し合いにおいて共感的な態度が大切であることに気付かせることができる。
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあること：「なるほど」「そうですね」「わかりました」など、共感や理解を示す言葉が事例として示されており活用することができる。

### ○ 指導の工夫

- 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと：第一次では、これまでの話し合いの様子を録画した映像を視聴し、話すこと、聞くこと、話し合うことについての課題を明らかにさせる。第二次では、4人程度のグループをつくり、テーマに沿って話し合いをさせる。モデルとなるグループの話し合いを「考えを伝えられているか」、「話し手の気持ちに傾聴しているか」の観点に沿って観察させ、めあてを確認させる。モデル観察と話し合いの実践を繰り返すことによって、言葉の選び方や傾聴の大切さ、むずかしさに気付き、話し手の気持ちに傾聴した話し合いができるようになるであろう。考えを収束させる場面において、相談者の悩みに合った解決策になっているか今一度振り返らせ、相談者との合意を図りながら話し合いを進めさせる。第三次では、単元を通して話し合いについて振り返り、何のために話し合いが必要なのかその役割について考えをまとめさせる。話し手（相談者）が、「話すことで考えを整理することができた」「やってみようかなと思えるアイデアがもたらされた」と思える話し合いを目指したい。「結論を一つに収束させる話し合い」、「多様な考えを出し合い整理する話し合い」など、その目的によって様々な場面で話し合いが活用されることにも気付かせたい。
- 言葉には、考えたことや思ったことを表す働きがあること：教材文を読み、話し合いの事例からよりよい進行の仕方や態度、話し方について気付かせる。また、話し合いを通してよりよい伝え方、傾聴する態度について気付かせる。

## 8 単元の学習と評価の計画（全6時間）

次	時	学 習 活 動 (評価方法)	観 点		
			国語への関心・意欲・態度	話す・聞く能力	言語についての知識・理解・技能
一	1	○教材のねらいを確かめ、学習の見通しをもつ。 ・これまでのグループでの話し合いを振り返り、進行や提案などの役割を果たして話し合うにはどのようなことに気を付ければよいか、気付きを出し合う。  ノート 発言	○		
二	2	○グループで話し合う。 ・ <u>相手の話や気持ちを受け入れようとする話し合い</u> を練習する。 ノート 発言			○
	3	○グループで話し合う。 ・ <u>提案の仕方</u> を練習する。  ノート 発言		○	
	4	○グループで話し合う。 ・ <u>必要なことを質問し、相手を理解しようとする話し合い</u> を練習する。【本時】 ノート 発言		○	
	5	○グループで話し合う。 ・ <u>進行の仕方</u> について練習する。  ノート 発言		○	
三	6	○学習前後の話し合いを振り返り、単元のまとめをする。 ノート 発言	○		

## 9 本時の目標

- 必要なことを質問し、相談内容を理解しようとしながら話し合うことができる。

## 10 学習展開 (話す・聞く能力 二次3/4)

学 習 活 動	指導上の留意事項	めざす児童の具体的な姿
1 本時のめあてを確かめる。	○前時の話し合いを振り返えることで、これまでの学習とのつながりが意識できるようにする。	
【めあて】相談者に質問して、相談に合ったアイデアを考えよう		
2 モデルグループの話し合いを観察し、気付いたことを交流する。  (1) モデルとなるグループの話し合いを観察する。 (2) 気づきを交流する。 ・「いつ」「どこで」など、質問していた。(○) ・質問していたけれど、相談したいことに合っていない。(△) ・質問したことからすすんでよいアイデアを出していた。(○) ・質問したけれどアイデアを考えていない。(△)	○観察する観点について確認し、目的をもって観察することができるようにする。 ・必要なことを質問し、相談内容を理解しようとしているか。 ・「いつしていますか。」 「～でしているのですね。」など質問や確認の言葉を用いているか。	
【主要発問】どのような言葉を使って質問したらよいですか		
3 グループで話し合いをする。 ① グループ内でのめあてを確認する。 ② 進行に沿って話し合う。	○グループでのめあてを確認させ、目的をもって話し合いができるようにする。 ○質問をするときに使う言葉を示したカードを持たせ、めあてに沿った話し合いができるようにする。 C：質問や確認の言葉を具体的に示し、話し合いに参加できるようにする。	
4 本時を振り返る。 ・本時のねらいに照らして、自分の話し合いの様子について振り返りを書く。	○グループどうしで互いの話し合いを観察し、気づきを交流させ、客観的に話し合いを振り返ることができるようにする。 ○「相談内容を知るために質問ができたか」「どのような言葉を使って質問したらよいのか」の二点について書かせ、ねらいにせまる振り返りができるようにする。	A:的確な質問ができ、相談内容を理解しようとしながら話し合っている。  B:必要なことを質問し、相談内容を理解しようとしながら話し合っている。  (ノート 発言)